

プログラム名	考えよう地域の防災	
実施団体	○団体名：カワラバン ○代表者名：菅原 正徳 ○電話：090-9745-3571 ○FAX：022-739-8814 ○住所：仙台市青葉区中山 6 丁目 1-12 ビューテラス K101 ○E-Mail：contact@kawara-ban.org ※プログラム提案団体：特定非営利活動法人 水・環境ネット東北（平成 19 年度）	
対象者	小学生4～6年生 中学生 高校生 成人	
対象人数	40人程度 *学校で実施の場合はクラス単位が望ましい	
学習場所	室内と学区内の浸水想定地域	
学習時間	90分～3時間半	
実施時期	通年	
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	資料(パワーポイント)、地図
	利用者側	パソコン、プロジェクター、スクリーン、延長コード、ペン類
事前打ち合わせ	実施希望日の2ヵ月前程度…学区内の調査箇所下見 実施希望日の直前……………プログラムや準備物の確認	
効果的な学習段階	○小学6年生「大地のつくりと変化」 ○小学5年生理科「流れる水のはたらき」 ○小学4年生社会科「地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫」 「郷土の発展に尽くした先人の具体的事例」 ○総合学習や防災訓練	
学習概要	1. 学習のねらい	
	大雨時の浸水被害の予測を示した洪水ハザードマップは、仙台市によって作成はされたものの、その認知度は低く、市民が水害に備えるツールにはまだなっていない。本プログラムでは、ハザードマップをもとに地域の浸水の可能性を知り、水害発生メカニズムや水害に関わる様々な情報を学ぶとともに、自らが地域を歩き、集めた情報をもとに防災マップをつくることで、地域の防災について考える機会とする。	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
プログラムで見聞きした情報を記載したマップ。 (参考 太白区四郎丸地区)		○水害防災という視点で地域を見ることで、様々な再発見をする ○水害防災に関する情報を集約し発信する事で、地域の防災に役立てる ○水害に関する歴史や施設に関する情報を、地域住民や関係機関から学ぶ事で、新たな地域コミュニケーションが生まれる
		

学習概要	A.地域と川の関わり(15分) 地形や歴史を知る事で、川や水と地域が密接に関わっている事を理解する。		○地域のなりたち ○水にまつわる地名や伝承 ○水に関わる施設(水路等)
	B.水害について(15分) 水害の種類や過去の水害被害について知る。		○堤防の決壊等で浸水する外水はらん(図左)と住宅地の排水機能低下による内水はらん(図右)
	C.私たちの暮らしと水害の関係(15分) 日々の生活によって排出される二酸化炭素も地球温暖化の一因となり、地球温暖化も洪水のリスクを高める一因である事を知る。		○地球温暖化に伴う降雨の変化 ○土地利用の変化と水害
	D.水害に備える(15分) ダムや堤防、ポンプ場等は整備されたが、想定を超える大雨の場合には地域が浸水することを知り、注意点を確認する。		○洪水ハザードマップ確認 ○避難時の注意事項
	E.まち探検(60分) 学区内の浸水想定箇所を歩き、土地の高低や水路の有無を確認するほか、堤防やポンプ場などの施設見学をすることで、水害防災という視点から地域を見る。	仙台市洪水ハザードマップ→	○10cm単位で標高が分かる地図で高低を確認
F.水害時に被害を小さくするために出来る事について考える(30分) 自助、共助、公助それぞれの観点で水害時の被害を小さくするためにとるべき行動について話し合う。		○自助、共助、公助それぞれの観点で考える	
G.水害防災マップづくり(60分) プログラムで得られた情報をマップに記載し、学校内や地域の方々や情報を共有する。		○情報の共有	
4. 学習のまとめ			
・地域の成り立ちには、川のはたらきが関係している。 ・地球温暖化に伴う台風の大型化や異常多雨の増加により洪水リスクが高まっている事から、地球温暖化の防止も減災につながる。 ・都市化に伴う保水能力や遊水能力の低下も洪水に寄与する、土地利用についてもよく考える必要がある。 ・被害を小さくするためには、それぞれの立場でやるべきことを考えて実行しなければならない。			
追加・変更できる学習内容	○時間に制約がある場合はABCDEFのみを行う、もしくはEGを別日程で行うことも可能。 ○地域の水害の歴史などについて解説できる方がいる場合は、講師として話をしてもらう。		
事前・事後学習についての助言	○家族の洪水体験を聞いてくる(事前)。 ○本プログラムの時間内で作成できるマップは、学習後も内容を充実させていく必要がある。		
雨天時の学習内容	○室内でABCDEFのみ行い、EGは後日行う。		